
漫才「携帯電話」

川越ふみ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

漫才「携帯電話」

【Nコード】

N8807J

【作者名】

川越ふみ

【あらすじ】

漫才のネタ作ってみました。

(前書き)

小説ではなく、漫才です。

登場人物：ポケ(ポ)、ツッコミ(ツ)

2人の時は2です。

2：はい、どーもー！

ボ：みなさん、これから漫才、やりますよー！（お客さんに向けて叫ぶ）

ツ：わざわざ報告しなくてもお客さん分かってるから。

ボ：そうですね？じゃ、脱ぎますか。

ツ：脱がなくていいから。

ボ：ん？

ツ：なんで出てきたそうそう、脱がなくちゃいけないだよ。

ボ：上半身の方ですよ（当たり前のように）

ツ：上半身の方ならOKとかじゃないから。

ボ：そうですね？。本当にいいんですね？

ツ：いいですよ。

ボ：後で後悔しますよ。

ツ：なんでお前が上半身脱がなかったことを後で後悔するんだよ。

ボ：4年に1度ですよ。

ツ：オリンピックみたいにお前は4年に一度上半身脱ぐんだ？

ボ：いや、ワールドカップの年に私は上半身を脱ぐんです。

ツ：どつちでもいいよ。

ボ：ねー（お客さんに媚びるように）

ツ：なんでお客さんに媚びてるんだよ。

ボ：例えばさー．．．（急に）

ツ：いきなり例えちゃうのー？

ボ：え？例えちゃマズかった？

ツ：いや、マズくはないけどさー、まだ俺の中で例えられる準備が整ってなかったからさー。

ボ：あー、あー、あ、強いて言えばさー。

ツ：いや、何があつての強いて言えばなの？

ポ：え？強いて言っちゃマズかった？

ツ：だからマズくはないんだけどさー、俺の中で強いて言われる準備が整ってなかったからさー。

ポ：あ、そっか、そっか……。はなし、かわる、けど、さー……。
(相方の顔を伺いながら)

ツ：なんで探り探りなんだよ。いいですよ、話変わってもらって。

ポ：え！？ホントに！？(満面の笑みで)

ツ：そんなに喜んでくれるとは思わなかったよ(笑)

ポ：お前、携帯電話のことなんて言うの？

ツ：だいたい話変わっちゃったねー。

ポ：話変えてもいいいでしょ？

ツ：まー、いいですけど。いや、まー、普通に「携帯」でしょ？

ポ：それぞれそれ、おかしくない？

ツ：いやいや、みんなそうなんじゃないの？(お客さんを見渡しながら)

ポ：よく考えてみてください。「携帯」って、持ち運ぶとかいう意味じゃないの？「お前、持ち運びの機種なに？」とかおかしいんじゃないの？略すんなら「携帯」でしょー？

ツ：「携帯」なんて略してる人見たことないは！(バカにしたように)

ポ：だったらどっちかっていったら「電話」だろー。

ツ：「電話」っていうのもおかしいだろー。

ポ：いやいや、お前はあれだからね、ミスターチルドレンを「ミスター」って言うてるようなもんだからね。

ツ：それとこれとはまた別だろー。

ポ：いや、一緒ですよ。ポケットモンスターを「ポケット」っ呼ぶんでしょ？あなたは。

ツ：いや、それは「ポケモン」ですよ。ミスターチルドレンも「ミスチル」ですよ。

ポ：携帯電話は？

ツ：携帯キッパリと

ボ：おかしいだろっつーの！（片足を何度も踏みつけながら）涼しい顔で言いやがって！

ツ：……

ボ：じゃー、ちょっと軽いゲームをしましょう。じゃーね、俺の言ったものを略して行って下さい。

ツ：はい。いいですよー。

ボ：えー、ミスターチルドレン。

ツ：ミスチル！

ボ：ポケットモンスター。

ツ：ポケモン！

ボ：ドリームズカムトゥールー。

ツ：ドリカム！

ボ：木村拓哉。

ツ：キムタク！

ボ：携帯電話。

ツ：携帯キッパリと

ボ：……間違えるやー！

ツ：携帯ですよ。

ボ：畏にハマれやー！俺の術中にハマれやー！滑舌よく言いやがって！

ツ：全然問題ないですよ。

ボ：ちよつともう一回やらしてくれ！

ツ：えー？

ボ：頼むから。土下座するからさ（必死にツッコミにすがり寄る）

ツ：随分、立場低くなっちゃったなー。じゃー、いいですよ。もう一回。

ボ：ありがとう！ホントにありがとう！（ツッコミの両手を握る）

ツ：今の俺とお前の間柄はなんなんだよ。

ボ：やっぱり脱ごうか？

ツ：だから脱がなくていいから。
ボ：次は4年後だけどいいのか？
ツ：いいから、問題出して。
ボ：そうか。よし、じゃー、行くぞー。
ツ：いいよー（気合いを入れる）
ボ：ドラゴンクエスト
ツ：ドラクエ！
ボ：東京大学。
ツ：東大！
ボ：就職活動。
ツ：就活！
ボ：こちら葛飾区亀有公演前派出所。
ツ：こち亀！
ボ：最終電車
ツ：．．．終電！
ボ：携帯電話。
ツ：．．．携帯！！
ボ：あー！！おいしい！！今ギリだったろ！！？
ツ：いや。全然問題ないですよ（冷静を装う）
ボ：うそつけ！最終電車から携帯電話へのくだりの所ギリだったろ？
ツ：いや、全然（涼しい顔）
ボ：ちよつと長めのシンキングタイムだったじゃねーかよ！
ツ：（無言で首を左右に振る）
ボ：くそ〜！！（太ももを2回強く叩く）
ツ：仮に俺がそこで携電つて言った所で、それを認めた訳じゃなくて誘導に引っ掛かっただけだからね。
ボ：それでもいいんだよ！
ツ：お前のプライドかなり低い位置にあるな。別にいいじゃないですかー、携帯電話は携帯でも。
ボ：よくないっつーの。俺が総理大臣になったらまず「携帯電話は

携電と略させます」をマニフェストにするからな！

ツ：どんなマニフェストだよ・・・

ボ：みんなの笑顔が見たいから、携帯電話は携電と呼ばう！（右手の拳を握り、ポーズをとる）

ツ：なんのCMだよ。

ボ：携電の呼び方を普及させる政府のCMだよ。

ツ：わざわざ政府が作るの？なんだよ、みんなの笑顔が見たいからつて。

ボ：いいでしょ？

ツ：いいも何も意味が分からないからね・・・

ボ：好きです。携電！（爽やかに）

ツ：あ、そっちのパターンもあるんだね。2パターンかな。

ボ：こっちのパターンにはね、アイドルを起用したいと思います。

ツ：勝手に妄想してくれよ。

ボ：上戸彩ちゃんがいいかな。

ツ：お前がファンなだけだろ？

ボ：そりゃ、上戸の彩ちゃんに「好きです携電！」って言われたらみんな携電、携電のお祭り騒ぎでしょー。

ツ：まー、本当ににそのCMが流れたなら俺も携電って呼んでもいいですよ（ある分けないと思いつながら）

ボ：ホントだな！？

ツ：いいですよ。

（ポケットを探るボケ）

ボ：じゃー、ちょっと今から上戸彩ちゃんの事務所にオファーするから。

（ポケットを探るボケ）

ボ：あれ、無いな。あ、ちょっと「携帯」貸して！

ツ：お前が携帯って言っちゃってるじゃねーかよー！

2：ありがとうございますー！

(後書き)

くだらない漫才をお読みいただき、ありがとうございました。
ご感想をいただけたら嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8807j/>

漫才「携帯電話」

2010年10月21日23時49分発行